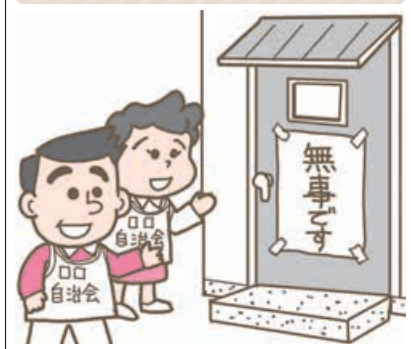


発災を想定した取組

安否確認訪問訓練



安否確認用紙等を用いた訓練



地域防災拠点への避難誘導訓練



● 要援護者安否確認訓練の実施

磯子山手町内会

要援護者と支援者のバランスを考慮したうえで、近隣のいくつかの組によるグループを結成しています。訓練は発災時を想定して、そのグループで集まりやすい場所に設定した「いっとき避難場所」を中心に実施しています。支援者は、要援護者宅を落とし込んだマップを確認しながら、実際に安否確認訪問を行います。また、トランシーバーを利用して安否確認状況等を本部に報告し、合わせてエリア全域の交信状況を確認しています。このような訓練を含め、要援護者の方に少しでも安心して暮らせる体制を作っています。



● 中学生による安否確認訪問・避難誘導訓練の実施

洋光台第一小学校地域防災拠点

阪神・淡路大震災の際には、中学生などが避難や救助の大きな力となったと聞いていたので、地元にいることが多く体力も大人に近い中学生に担い手になってもらうことを考えました。学校と連携して、地域防災拠点訓練の中で、中学生と民生委員・児童委員による要援護者の安否確認訪問のほか、地域防災拠点までの避難誘導訓練を実施しました。訓練を通じて、中学生と要援護者の方で信頼関係を築いてもらい、中学生には自分の住む地域に災害時に支援の必要な人がいるという意識を持ってもらっています。



● 安否確認用紙を利用した訓練

栗木町内会

町内会全世帯に「安否確認用紙」を配付し、発災時には玄関に掲示するよう徹底しており、これには要援護者の方も対象に含まれています。定期的な意識づけのため、回覧で呼びかけて町内会の防災訓練時に安否確認用紙を活用した訓練も実施しています。

安否確認のアイデア

発災時のいち早い安否確認のため、地域ではいろんな工夫をしているみたいだよ。

- 事前に配った黄色いハンカチを玄関先に掲げる
➔ 無事であることの意味表示
- 身近にあるタオルなどを安否確認の目印として活用
- 安否確認用紙やステッカーなどを玄関先に掲示



安否確認用紙▶